

資料3

# 慈善活動とソーシャル・キャピタル

『孤独なボーリング』と  
『JGSS-2005』による定量分析

 **大阪商業大学**  
Osaka University of Commerce

裕永佳甫

# 『孤独なボーリング』-第7章のレビュー

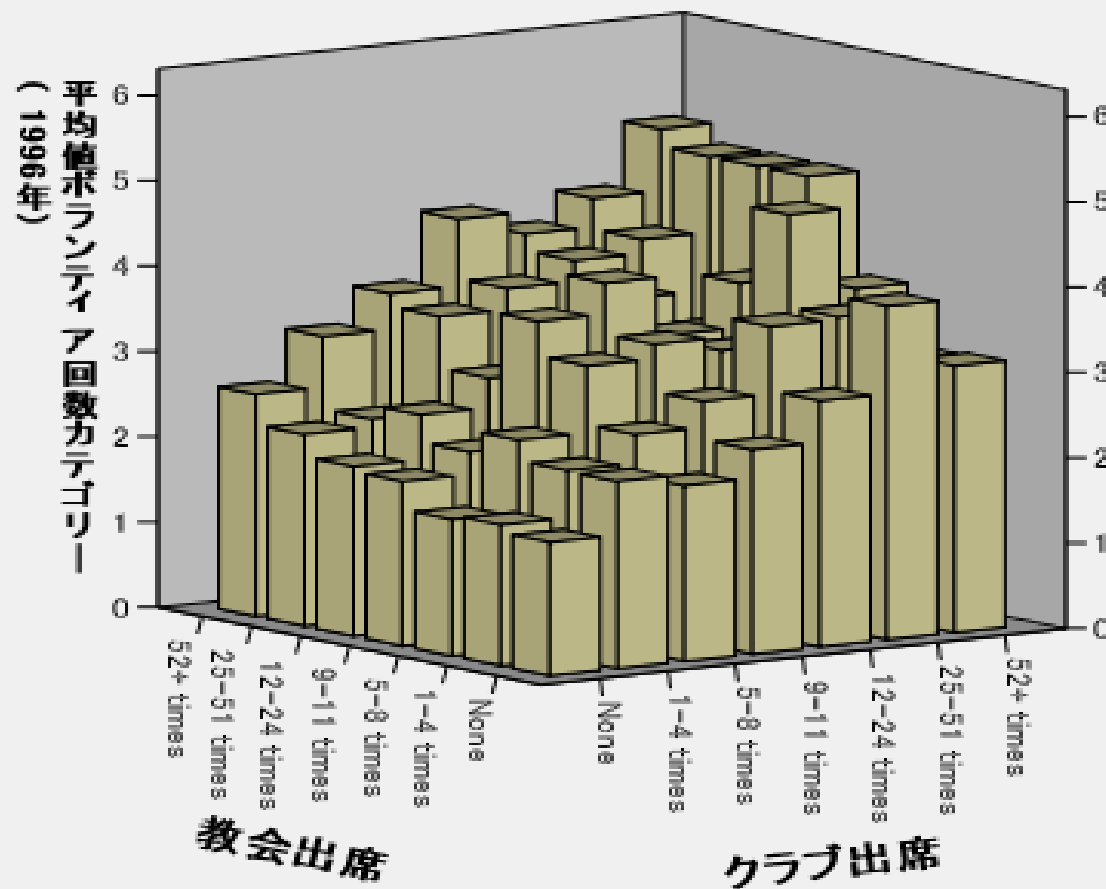
「ソーシャルキャピタルと、寄付とボランティアの傾向とは密接な関係にある。」

- 社会的ネットワークに所属しているものは、所属していないものより寄付とボランティアを行う傾向にある。
- コミュニティへの関与を深めれば、寄付とボランティアを行う可能性も増える。
- ボランティアは寄付の最も強力な予測関数であり、その逆もまた真である。
- 寄付とボランティアは大都市より小都市で盛んである。

# ボランティア活動と教会・クラブ出席との関係

ボランティアを行ったか

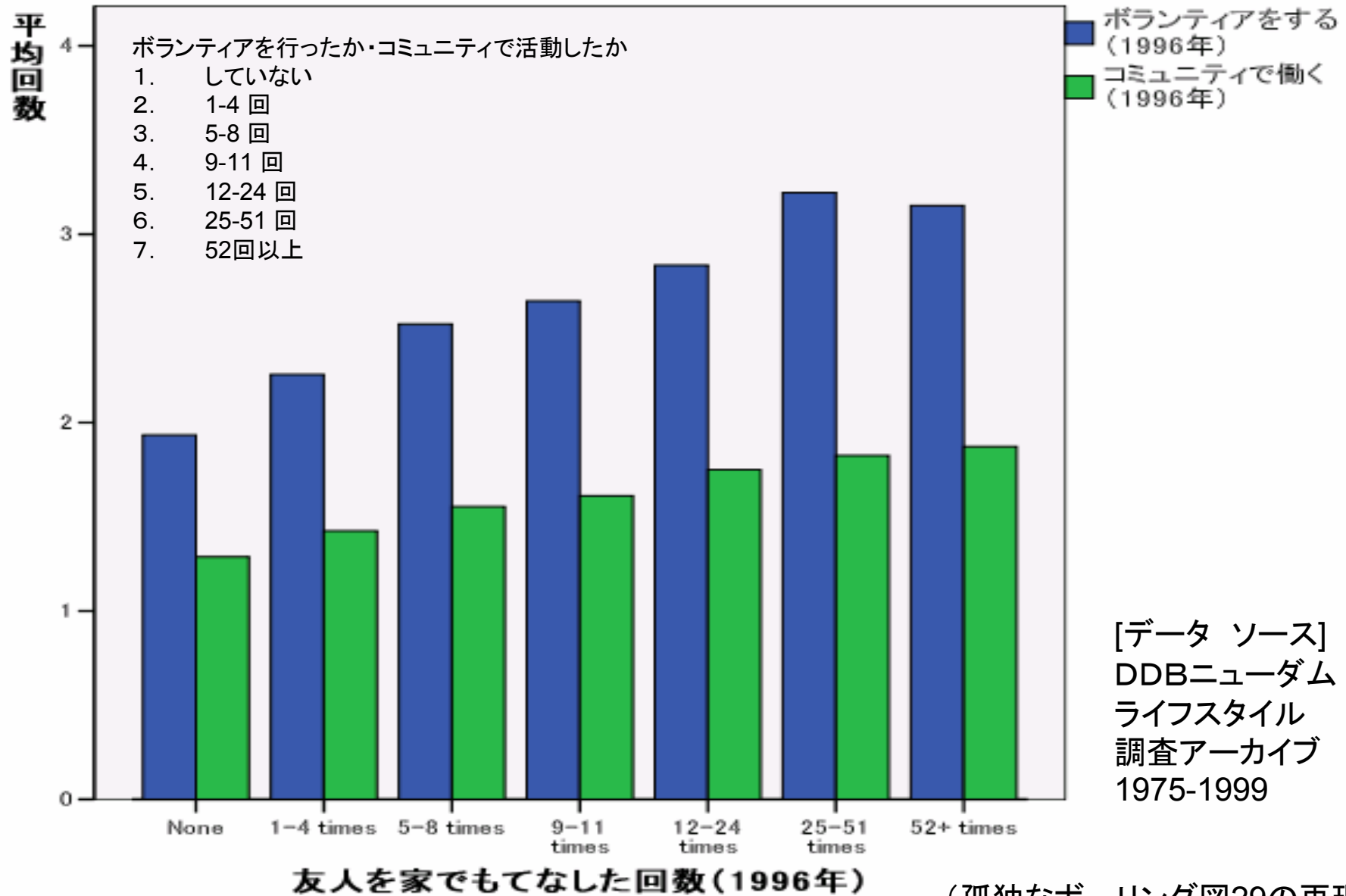
1. していない
2. 1-4 回
3. 5-8 回
4. 9-11 回
5. 12-24 回
6. 25-51 回
7. 52回以上



[データ ソース]  
DDBニューダムラ  
イフスタイル調査  
アーカイブ1975-  
1999

(孤独なボーリング図28の再現)

# シュムージング(他人とのおしゃべり)とボランティア



## ソーシャルキャピタルと慈善活動の密接な関係

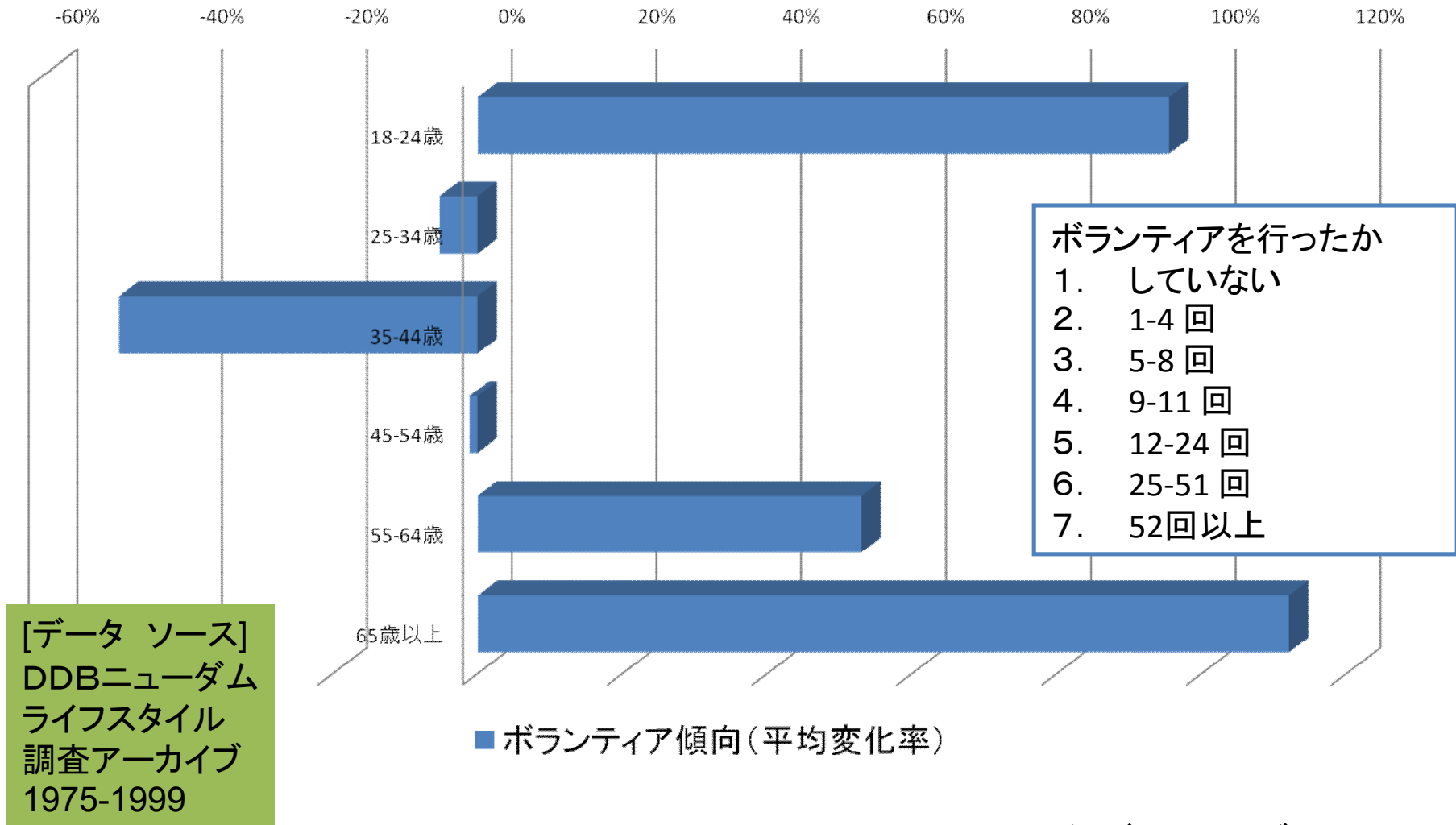
- 社会的ネットワークとのリンクが弱まっているにも関わらず、寄付と異なりボランティアは上昇傾向

○ボランティア参加率の上昇に大きく寄与しているのは、高齢者による活動である。

○高齢者も社会的ネットワークとのリンクは低下しているものの、他の年齢層に比べると、その減少率は少ない。

# ボランティア傾向

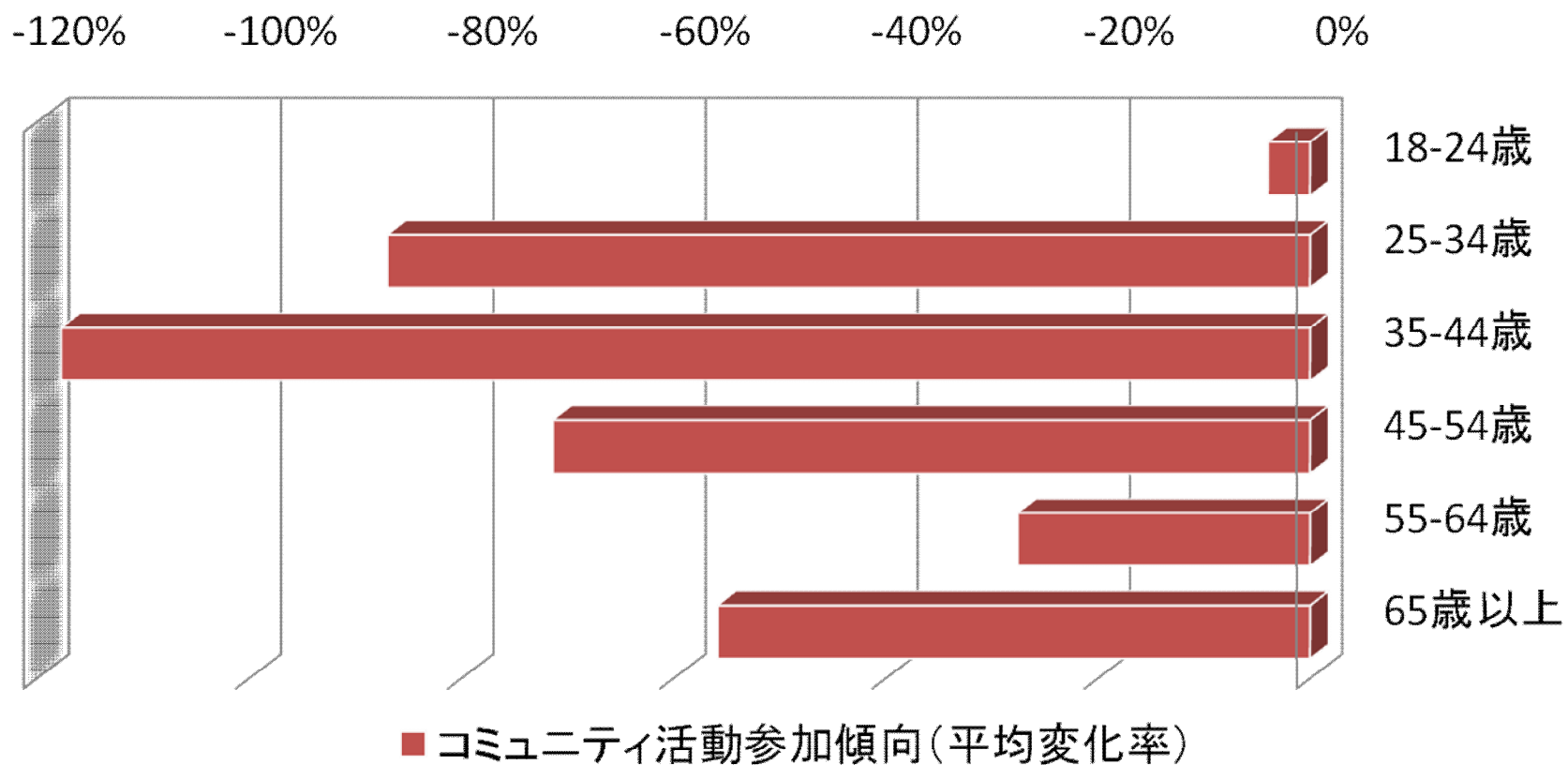
## ボランティア傾向(1975-1998)



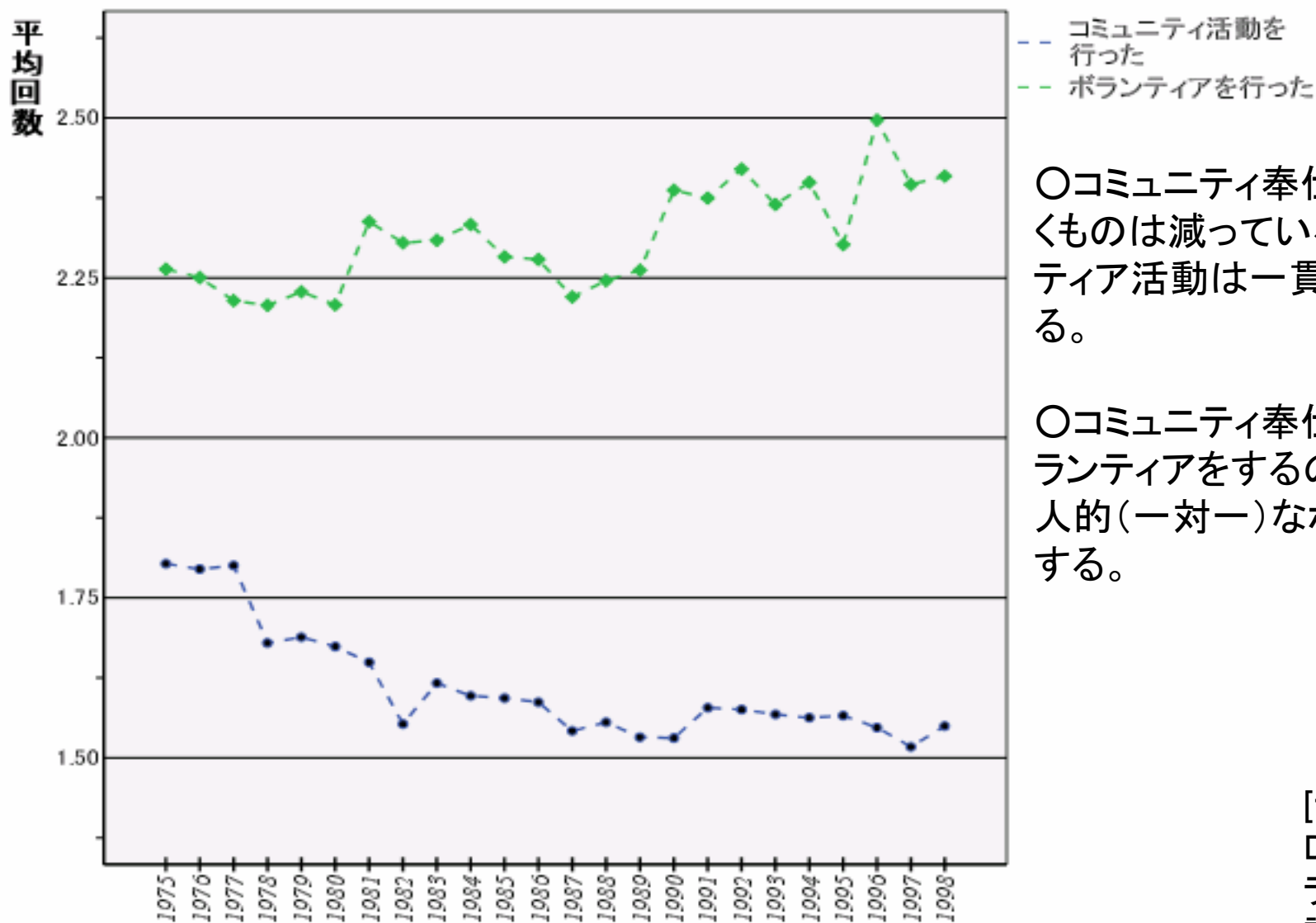
(孤独なボーリング図35再現)

# コミュニティ活動参加

## コミュニティ活動参加傾向(1975-1998)



# ボランティアの増加とコミュニティ活動の減少



○コミュニティ奉仕のために働くものは減っているが、ボランティア活動は一貫して伸びている。

○コミュニティ奉仕のためにボランティアをするのではなく、個人的(一対一)なボランティアをする。

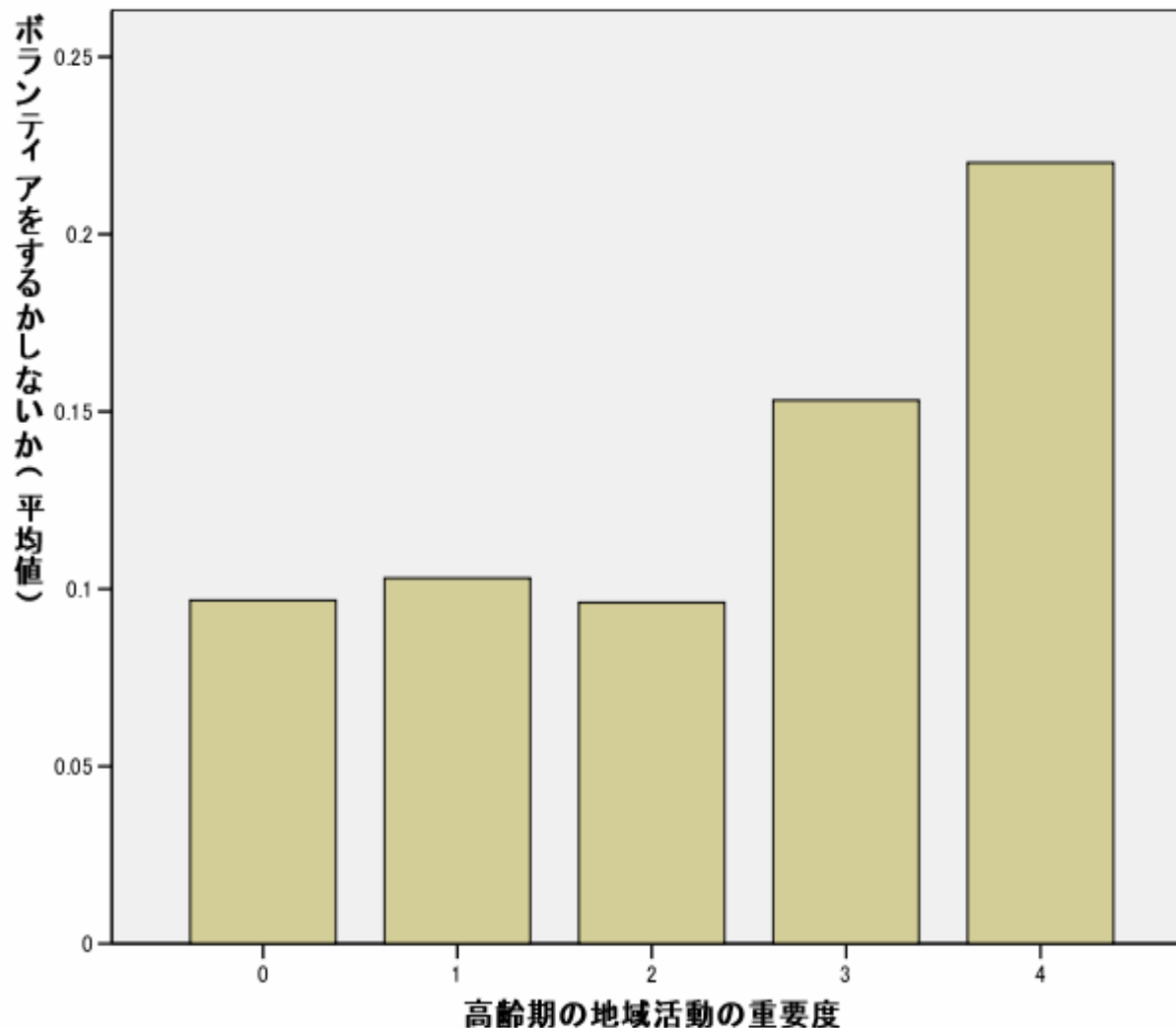
[データ ソース]  
DDBニューダム  
ライフスタイル  
調査アーカイブ  
1975-1999

(孤独なボーリング図34再現)



# 高齢期の地域活動に対する考え方とボランティア活動

高齢期の地域活動は重要だと回答している者のほうが、ボランティアを行う傾向にある。



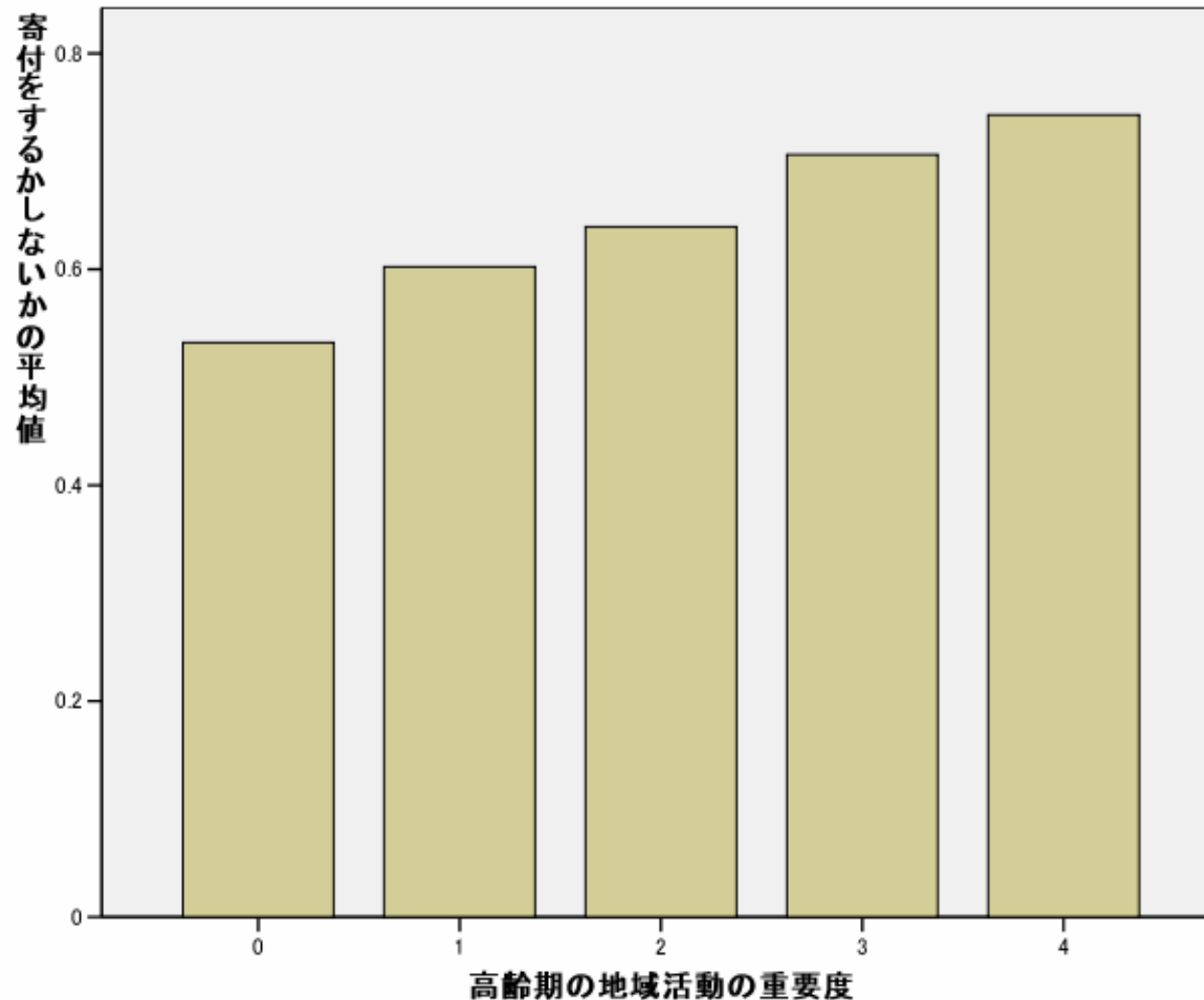
Q.あなたは高齢期の過ごし方で、町内会・老人会等での地域活動がどれくらい重要だと考えますか。

0. 全く重要でない。
1. 重要ではない。
2. どちらともいえない
3. 重要
4. 非常に重要

[データ ソース]  
JGSS-2005

# 高齢期の地域活動に対する考え方と寄付行為

高齢期の地域活動は重要だと回答している者のほうが、寄付を行う傾向にある。



Q.あなたは高齢期の過ごし方で、町内会・老人会等での地域活動がどれくらい重要だと考えますか。

0. 全く重要でない。
1. 重要ではない。
2. どちらともいえない
3. 重要
4. 非常に重要

[データ ソース]  
JGSS-2005

慈善活動は信頼、互酬性の規範、ネットワークに加え、ソーシャルキャピタルの第4の要素？

寄付とボランティアが「～のためにすること: doing for」なら **NO**.

寄付とボランティアが「～と共にすること: doing with」なら **YES**.

社会的ネットワークから離脱している傾向にあるので、**NO**である可能性が高い。

# リサーチアジェンダ

## JGSS-2005による計量分析

「寄付とボランティア」の決定要因分析に「ソーシャルキャピタルの3要素『信頼』、『互酬性の規範』、『ネットワーク』を加味した推計を行う。

# 理論モデルから計量モデルへ

JGSS－2005による計量分析

興味のある方は、ハンドアウト(英語)を参照してください。

# 計量モデル

$$\begin{cases} GIVE^* = \beta_1' Z_1 + \gamma_1' SC_1 + \varepsilon_1 \\ VOLR^* = \beta_2' Z_2 + \gamma_2' SC_2 + \varepsilon_2 \end{cases}$$

$Z_{i=1,2}$ : 社会的属性、人的・健康資本（フロー）など  
 $SC_{i=1,2}$ : 社会関係資本（フロー）  
 $\varepsilon_{i=1,2}$ : 誤差項 ただし、 $[\varepsilon_1, \varepsilon_2] \sim \text{bivariate normal}[0,0,1,1,\rho]$ ,  $-1 < \rho < 1$

変数の説明（表1）、記述統計（表2）、  
推計結果（表3）は、ハンドアウト参照

# 限界効果(算出方法)

(連続型変数)

$$E[VOLR | GIVE = 1, X_1, X_2] = \frac{\text{Prob}[VOLR = 1 | GIVE = 1, X_1, X_2, \rho]}{\text{Prob}[GIVE = 1 | X_1]}$$

(離散型変数)

$$E[VOLR | GIVE = 1, dummy = 1] - E[VOLR | GIVE = 1, dummy = 0]$$

(連続型変数)

$$E[GIVE | VOLR = 1, X_1, X_2] = \frac{\text{Prob}[GIVE = 1 | VOLR = 1, X_1, X_2, \rho]}{\text{Prob}[VOLR = 1 | X_2]}$$

(離散型変数)

$$E[VOLR | GIVE = 1, dummy = 1] - E[VOLR | GIVE = 1, dummy = 0]$$

限界効果は、ハンドアウト(表4)参照

# 限界効果の解釈

$\rho$  が固定されていないとき

○ボランティア関数  
(ソーシャルキャピタルフロー変数の係数が有意なもの)

1. 『趣味の会』に所属していると、ボランティアを行うかつ率が5.5%ポイント増加する。
2. 『ボランティアグループ』に所属していると、ボランティアを行う確率が31%ポイント増す。
2. 『宗教グループ』に属していると、ボランティアを行う確率が、12%ポイント増す。
3. 『スポーツクラブ』に所属していると、ボランティアを行う確率が6.1%ポイント高くなる。
4. 『信頼』はボランティアをするかしないかの決定要因ではない。
5. 『互酬性の規範』は、ボランティアをする確率が3.6%上昇させる。

○寄付関数  
(ソーシャルキャピタルフロー変数の係数が有意なもの)

特になし



# 限界効果の含意: 主に『慈善活動』に影響を与えるソーシャルキャピタル要素はネットワーク

$\rho = 0$ を棄却できない。⇒日本人の寄付とボランティアモデルにソーシャルキャピタルフローを考慮したとき、寄付関数とボランティア関数をそれぞれ独立推計してもよさそうである。

## ○ボランティア関数

(ソーシャルキャピタルフロー変数の係数が有意なもの)

1. 『趣味の会』に属していると、ボランティアを行う確率が5.3%ポイント増す。
2. 『ボランティアグループ』に属していると、ボランティアを行う確率が29.7%ポイント増加する。
2. 『宗教グループ』に属していると、ボランティアを行う確率が、11.6%ポイント増す。
3. 『スポーツクラブ』に所属していると、ボランティアを行う確率が5.1%ポイント増す。
4. 『信頼』はボランティアをするかしないかの決定要因ではない。
5. 『互酬性の規範』は、ボランティアをするかしないかの決定要因ではない。

## ○寄付関数

$\rho = 0$ で固定


(ソーシャルキャピタルフロー変数の係数が有意なもの)

1. 『ボランティアグループ』に属すると、寄付をする確率が13.7%ポイント上昇する。
3. 『宗教団体』に所属すると、13.2%上昇する。
4. 『信頼』は、寄付をするかしないかの決定要因ではない。
5. 『互酬性の規範』は、ボランティアをするかしないかの決定要因ではない。


(補) 高齢期にコミュニティ活動を重んじる傾向にある人は、寄付をする確率が3.1%ポイント上昇する。

# ソーシャルキャピタル政策がもたらすNPO セクターへの影響（想定されるシナリオ）


①ソーシャルキャピタルの醸成により、寄付とボランティアを行う可能性が増す



②NPOのサービス生産量が増加する。なぜなら、NPOサービスの生産関数 $=F(\text{寄付、ボランティア、常勤・非常勤・中間投入財})=G(\text{委託金、補助金、寄付金、助成金、...etc})$



③従前地方政府が供給していたサービスを、NPOへ現在の委託金あるいは、補助金を維持したまま、あるいは減額できる



④NPOが地方政府に代わり、公共サービスを供給することによる財政的負担の軽減、およびNPOへの委託金、補助金の減額による財政的負担の軽減による「小さな政府」を達成する